

## 第一回 学校運営協議会会議録（要点記録）

- 1 開催日時 2022年5月16日（月） 13時30分から15時30分まで
- 2 会議場所 芳川小学校 多目的室
- 3 出席委員 鈴木幸彦、林容子、佐藤祐輔、間宮年弘、鈴木麻里
- 4 欠席委員 犬居和賀代
- 5 オブザーバー 飯田一明（南陽協働センター）、古橋一哲（南陽協働センター）
- 6 学校 澤田正樹（校長）、池端一容（教頭）、榛葉崇文（CS担当職員）、  
内田由佳（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木陽子
- 8 傍聴者 なし
- 9 協議事項
  - (1) 会長の選出及び副会長の指名について
  - (2) 議長の選出について
  - (3) 芳川小学校運営基本方針について
  - (4) 夢やらまいか事業について
- 10 会議録作成者 CSディレクター 内田由佳
- 11 会議記録

司会の池端から、委員総数6人のうち5人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 会長の選出及び副会長の指名について

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、委員から佐藤委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選任された佐藤委員から、間宮委員を副会長に指名する旨の報告があった。

(2) 議長の選出について

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、間宮副会長より立候補する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

(3) 芳川小学校運営基本方針について

議長の指示により、校長から、プレゼン等に基づき学校運営基本方針について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

【明日また来たくなる学校】

【豊かな心向上プラン】

【キャリア教育より・人とつながる・自分をたかめる・課題解決・自分を見つめる】

【子どもたちだけでなく、教職員が職業を通じて幸せな人生を生き、活力に満ちた大人のモデルとなる学校】

・読み聞かせ等を通じて、言葉の力を利用して、子どもだけでなく教職員の幸せをめざせるのではないか（鈴木麻里）

・関係作りについて。全員と関係をよくするのは現実的ではないと思う。時には関係を疎遠にする技量をつけるのも大事ではないか。（間宮議長）

・読み聞かせ時に担任の先生の大変さが伝わった。地域との「人とつながる」観点から、学校現場の現状を保護者にもっと伝えたい。このCSでバックアップできないか。(佐藤)

・読み聞かせは半分の教室にしか行けなかった。(鈴木麻里)

・一番大切なのは挨拶である。朝の見守り時に挨拶する子はよいが、泣いているような子との対話から親しくなれる。子どもは相手を知っていると、地域の大人とも普段話せないようなことも話してくれる。(鈴木幸彦)

【明日また来たくなる学校】

・学校に来られない子。一日行かないと次に行きづらい。大人でもそうである。休んだ時に助け船をだせられる環境があるとよい。保護者の家庭の教育が現代では甘いと言われる。近隣も干渉しなくなっている。

教室行かなくても別室へ誘導する、など子どもに応じて体制やプログラム作りがないか。(佐藤)

→ 担任ではカバーが難しいのでは。この会で連携していき、そういう子をなくす方法を考えることが良いのでは。ボランティアでできることがないか。(間宮)

→ 保健室登校、リモート授業、放課後の家庭訪問等の実施をしているが、簡単ではない。登校だけがゴールではないという考えも選択肢にはある(澤田校長)

・不登校は最初が肝心。朝、学校に行くのが遅い子は、親が起こさないから起きられない。家庭での対応の重要性もあるが、子どもとの触れ合いの経験から地域の大人として家庭の様子を知ることができた。声かけ、ふれあい活動から家庭問題の解決の糸口にならないか。(鈴木幸彦)

・読み聞かせ時、読み終わったところに遅れてきた子に「今日の読み聞かせはよかったのに・・・」という声を聞いた。不登校児をどうするかよりも「楽しくまた来たくなる学校づくり」を優先にする方が効果があるのではないか。(麻里)

・地域へ参加する親も減少してきて、子ども会は存続が難しい現状から自治会の傘下としたので、予算は自治会費でまかなっている。存続が可能となった。地域とのつながりも学校との関わりでかわるのでは。(鈴木幸彦)

【確かな学力向上プラン】

・95%は同意するが、我慢やがんばるなどの苦しさも必要ではないか。成功体験は大事。困っている子に目が行きがちだが、課題がクリアしている子たちへの課題も必要ではないか。(間宮)

→ 切磋琢磨は必要である。教職員も相互に成長しながら、改めて以上のことを強化するべき。温かく互いを大切にしながら、厳しい現実の中で負けることもあるが、それも大切であることを盛り込んでいきたい。

(澤田校長)

【運動に親しみ、安全で規則正しい生活習慣を身につける】

【人とつながろう】

・小学校では部活や少年団があるのか。中学 PTA 役員の経験時に不登校問題が浮上。インディアカの団体に親が不登校生徒を呼んで、学校に来られるようになった。部活だけ登校もあった。放課後の家庭訪問も声掛けもした経験がある。子どもにとって、いろいろな場の提供が学校現場だけでなく地域にも必要。(飯田)

・雨の日の先生方の交通整理は大変である。車での登校送迎時の渋滞のこと。(鈴木幸彦)

・下校時に危険な行為を見かけると声掛けをするが、聞き入れてくれない場合がある。

なかなか聞いてくれない子をどうするか (鈴木幸彦)

・5/10号のフェアリータイムズより、その様子を記述している。職員から子供たちに指導したがくりかえ

し指導していく（澤田校長）

・登下校の安全について。学校近郊の渋滞によってクラクションや罵声等に子どもがさらされるのは教育上にもよくない。命を守るため門の増設などドライブスルー方式の検討、下校時の車の待機場所、地域の住民等への迷惑の対処等、登下校の送り迎え問題の対策は喫緊の問題であるとする。（佐藤）

#### 【学校運営基本方針全体について】

・親子代々、本校の卒業生だが、芳川小学校は地域の住民のよりどころとなっている。子供たちの成長の一助になりたい。学校便りの内容を地域とどのようにつなげていくかが我々の使命なのかもしれない。相互の関係を作りながら構築していきたい。子供の幸せ、職員の幸せなどの理想をもって取り組んでいるのはとても大事なことである。教員としての現職時代に社会情勢が不安な時でも理想をかげなければいけないことを学んだ。（林）

#### 【その他】

・校長の熱量に感嘆し、楽しい授業、教職員の魅力が、ホームページ等でも確認できるが、この場でコミュニケーションを取りながら学校内の事情を知ることができる（佐藤）

・本会議が4回では物足りないと感じる。（佐藤）

・教職員ともコミュニケーションを図りたい。SNS等を用いて委員同士のネットワークを築けるとよい。（佐藤）

#### 【サマリー】

・読み聞かせの充実、安全指導の対策等、不登校児の問題について熟議した。(間宮議長)

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

#### (4) 夢やらまいか事業に関する意見書について

議長の指示により、教頭から別紙資料に基づき、学校に必要な支援について説明があり、委員から以下の発言があった。

・ボランティアの方々に子どもたちからお礼をするのは教育の一環となりうる。(鈴木麻里)

・楽しい授業を掲げる一助として、講師を招き話を直接聞ける機会は大切。次回協議会と講演の日が重なるので、ぜひ参観できたらよい。(佐藤)

#### その他報告事項等

司会から、次回会議は、三海氏の講演を参観後、2022年6月30日(木)午後14時30分から多目的室で開催する旨の報告があった。

次回は鈴木麻里氏が議長をつとめる。